

本年度テーマ		主体的な学びや協働的な学びを通した学習のあり方について		事業内容		高知西：高知西高等学校の取組について									
概要・目的				本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、平成30年度をイメージして協議する。											
P	平成29年度の当初計画			D	平成29年度取組状況										
【高知国際中学校・高等学校の目標】				課題と今後の取組の方向性（→）											
■高い志を持ってたくましく行動し、地域や国際社会の発展に貢献できるグローバル人材の育成 1 自ら学び、考える力を身に付け、生涯にわたって学び続ける態度を養う。 2 多様な価値観を尊ぶ精神を持ち、他者と共に生きる態度を養う。 3 豊かな創造性を持ち、未来を切り開く、自主・自立の精神を養う。 ■国公立大学等進学者 ・125人以上（難関大学・医学部 10名以上、海外大学5名以上） ■英語運用能力 ・中学校3年生：全員が英検準2級以上 ・高校3年生：グローバル科全員が英検準1級以上、普通科50%の生徒が英検2級以上 ■国際バカロレア資格の取得 20人 ■より豊かな学力の定着 ～さらなる大学進学を実現 ・充実した習熟度別学習（34科目で実施）・論理的思考力や表現力、国際バカロレア資格等を生かした大学進学 ■思考力、判断力、コミュニケーション能力を高める探究型学習 ・自ら考え、表現する場面を多く取り入れたプログラム・海外等を舞台に、自らテーマを設定して課題研究等を実施 ■高度な英語運用能力を養う ～英語で学び、英語で考える ・生きた英語を学ぶ（外国人教師5人、ALT5人） ・英語以外も（数学や理科等）英語で学び、思考する（IBコース） ・国際会議等で研究発表 ・タブレットを活用して海外大学の授業に参加 ■世界とつながるグローバルの拠点 ・日本や地域の文化等をしっかり学ぶ ・海外高校等への長期留学（単位互換制度の導入） ・多くの海外留学生（10名）と共に学び、相互理解を深める ■中高6年間の一貫教育 ・高い思考力や語学運用能力、社会性等をしっかりと身に付ける ■キャリア教育 ・両校の取り組みを継承、発展 ■中高一貫教育校としての充実した教育環境 ・中高の連携に配慮した校舎及びグラウンドの整備 ・充実したICT環境（一人1台のインターネット環境等） ・国際交流の拠点としての施設の整備 等				1 H27 に県教育委員会が示した H29 年度までの本校における取組 ■グローバル教育プログラムの試行 ・自ら課題を発見し、解決策を考える探究型学習 ・コミュニケーション能力を育てる言語活動の充実 ■英語運用能力の向上 ・生きた英語を学ぶ体制づくり ALT（2名→4名）、外国人講師（1名→2名） ・ICT環境の整備 ・ICTの活用（聞く力、読む力、話す力の育成） ■国際交流 ・海外長期派遣の実施（留学先との単位互換制度） ・海外留学への支援の充実（留学1名→5名）				1 H27 に県教育委員会が示した H29 年度までの本校における取組 ■グローバル教育プログラムの試行 ・H27年度からスーパーグローバルハイスクールSGH事業として実施している。詳細は2高知西高等学校の取組を参照。 ■英語運用能力の向上 ・生きた英語を学ぶ体制づくり ALTは2名のまま、外国人講師2名配置 →外国人講師は、1年の英語表現Ⅰ単独で授業を担当、今年度から普通科の授業も担当している。 ・ICT環境の整備→校内LANのルーターのスペックが低かったため、一度にインターネットに接続できる台数が40台であったが、6月にルーターを更新することで、学校が保有する200台が同時に接続可能となった。 ・ICTの活用（調べ学習、リサーチペーパー等の執筆、英語教育における聞く力、読む力、話す力の育成 →英語の授業では1年は多読でMリーダーというサイトで読書の理解度をテストで確認している。週1回活用している。その他、1年生のグローバル探究Ⅰ（2単位）で調べ学習、2年生のグローバル探究Ⅱ（2単位）で調べ学習とリサーチペーパーの執筆、3年生のグローバル探究Ⅲ（1単位）で調べ学習とともにリサーチペーパーの執筆に活用。全学年280名あるいは、半分に分けて140名ずつ交代で使用の工夫をして活用。放課後も資料作成やリサーチペーパーの執筆など、グループや個人で使用している。 ■国際交流 ・姉妹校ザフレンズスクールへの交換留学1名（留学の単位を認定） ・海外留学への支援の充実は実現されていない。→トピタ留学JAPANの活用（3年生男子1名、スペイン、8月中旬から3週間）				1 H27 に県教育委員会が示した H29 年度までの本校における取組 ■グローバル教育プログラムの試行 ・県内外における生徒の活動が活発になればなるほど、経費が必要となり、生徒の負担が増加する。 →県予算での支援を継続していただけるよう要望していく。国際交流推進会から支援をお願いする。 ■英語運用能力の向上 ・外国人教員では大学入試に向けた補習等の対応が困難であるので、IB担当以外の教員配置について検討していく。 ・ICT環境の整備→現状では授業の中で、生徒一人ひとりが英語を話す機会はどうしても少ないので、スカイプ等を活用して、生徒一人ひとりが英語を話す環境づくりを検討する。 ■国際交流 ・姉妹校ザフレンズスクールに加えて、台湾などの新たな交流校の開拓を進める。 ・県内外の大学等が企画する国際交流企画への積極的な参加を呼び掛ける。			
2 高知西高等学校の取組				2 高知西高等学校の取組											
取り組み① Agenda N 2017による学校経営計画の遂行				取り組み① Agenda N 2017による学校経営計画の遂行											
■学びの習慣の確立と学力向上 ・家庭学習習慣の確立（1年：90時間/月、2年：100時間/月） ・図書貸し出し数1000冊/年（1、2年） ・国公立大学合格者100名以上 ■特別活動と部活動の充実 ・多くの生徒が皆勤となることを目指す ・部活動への参加（1年：加入率90%以上、2年：継続率80%以上） ・学校適応100%（1年）30日以上長期欠席者0 ・錬歩会完歩率95% ■グローバル教育の推進 ・SGHの取組の推進 ・社会貢献活動や自己研鑽活動への取組 ■英語運用力の向上 ・英語検定の取得 1年：準2級 普50%、英100% 2級 英20% 2年：準2級 普80% 2級 普10% 英50% 3年：2級 普20% 英100% 準1級 英3名				■学びの習慣の確立と学力向上 ・家庭学習時間調査を6月以降に学期ごとに実施予定。 ・図書貸し出し数 1年：307冊（329）、2年61冊（43）（5月まで（）内は昨年） ■特別活動と部活動の充実 ・出席状況（1学期中間試験、6月2日まで） 1年 欠席 73、遅刻13、早退7、皆勤228名（81.1%） 2年 欠席 97、遅刻58、早退19、皆勤187名（66.8%） 3年 欠席112、遅刻51、早退18、皆勤205名（74.5%） ・部活動への参加（1年：加入率93.2%、2年：継続率87.6%以上） ・学校適応100%（1年） ■グローバル教育の推進 ・取り組み②に記載 ・社会貢献活動や自己研鑽活動の呼びかけ ■英語運用力の向上（英検の取得） ・1、2年については学年で一度は受検できる体制づくり（保護者の了解を得て、受検費用を集金済み） 第1回の英検は187名（1年15名、2年20名、3年152名）受検 ・2次対策指導を実施				取り組み② SGHプログラムの実施と磨きあげ ・1年：グローバル探究Ⅰ 高知県の課題を知る 10回19時間講師14名招へい ・2年：グローバル探究Ⅱ グローバル課題の調査 10回19時間 講師9名招へい ・3年：グローバル探究Ⅲ 生徒個人でリサーチペーパーを作成中。10回10時間 ・海外リサーチの派遣先の決定（香港4名、タイ5名、台湾11名、シンガポール9名）、派遣生徒の決定 ・シンガポール大学でのアジアの高校生を対象としたポスターセッションへの参加募集し4名の参加決定 ・県内リサーチの訪問先の選定 ・グローバルマインドなどの生徒の成長を分析するための生徒アンケートを5月に実施（2月に2回目を実施予定）、現在、分析中 ・オーストラリア語学研修（7月31日から17日間）の参加者12名を決定							
取り組み② SGHプログラムの実施と磨きあげ				取り組み② SGHプログラムの実施と磨きあげ											
・グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実施 ・国際シンポジウムの開催 ・英語による探究活動（GEⅠ、英語課題探究など） ・国内リサーチ、海外リサーチの実施 ・多読・多聴・多話・多書の推進 ・平成29年度から3年間のまとめを作成				・生徒の課題研究スキルを早期から身に付けさせるプログラムづくり ・大学などの外部講師からの講評を分析して、今後の取組にどのように活用するかを検討する。 ・県内リサーチや海外リサーチなどイベントごとに終了後に効果を分析する。											